

(24) プリムラ

ア 各病害虫の防除

灰色かび病

軟腐病

オンシツコナジラミ

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

灰色かび病

(耕種的・物理的防除)

- 1 マラコイデスやオブコニカに多く、ポリアンサやシネンシスに少ない。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用(散布)する。

軟腐病

(耕種的・物理的防除)

- 1 鉢上げ後、生育が極端に不揃いの場合は、感染していることが多いので、このような場合は処分する。
- 2 マラコイデスに多い。

オンシツコナジラミ

・[共通防除の章のコナジラミ類の防除の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 寄生範囲が広いので、ほ場内外の雑草防除などほ場衛生に努める。
- 2 施設では成虫の侵入防止を徹底する。0.4mm目以下の防虫ネット、紫外線カットフィルム、反射資材等の利用が有効である。
- 3 夏期には露地においても発生が多くなるため、秋期より栽培(定植)の始まる作型では、施設内への成虫の侵入防止対策が特に重要である。
- 4 育苗期の防除に努め、コナジラミ類が寄生していない苗を定植する。鉢物など、栽培に関係のない植物は、施設内に持ち込まない。
- 5 連作する場合には、作と作の間に施設内に植物が存在しない期間を設け、コナジラミ類がリレーされることを避ける。
- 6 施設での発生予察のために黄色粘着テープを使用する場合は、侵入防止を徹底したうえで、施設の出入口や側窓付近に張り、定期的に交換する。
- 7 作物上に寄生したコナジラミの施設外への逃亡・拡散を防止するため、収穫後の残さは、キルパーの処理や施設の密閉(蒸し込み)により、枯死、乾燥させた上で処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 早期発見、早期防除に重点を置く。薬剤効果に差があるので、両種の区別を的確に行う。薬剤散布を行うに当たっては、葉裏に寄生している幼虫、蛹にも必ず薬剤がかかるよう丁寧に十分な量を散布する。さらに、薬剤が株全体によく到達するよう下葉の処分を早期に行うなど工夫する。
- 2 気門封鎖剤を散布する。
- 3 キルパーを用いた前作の古株枯死([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項の「キルパーを用いた前作の古株枯死、病害虫まん延防止」](#)を参照) ([農薬登録情報](#))
- 4 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。